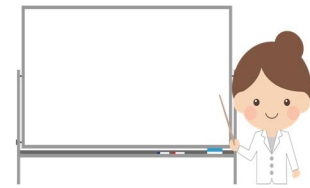


腫瘍マーカーについて



腫瘍マーカーとは？

体のどこかに腫瘍ができると、血液中や排泄物中に、たんぱく質や酵素、ホルモンなどの特別な物質が増えてきます。それが**腫瘍マーカー**です。

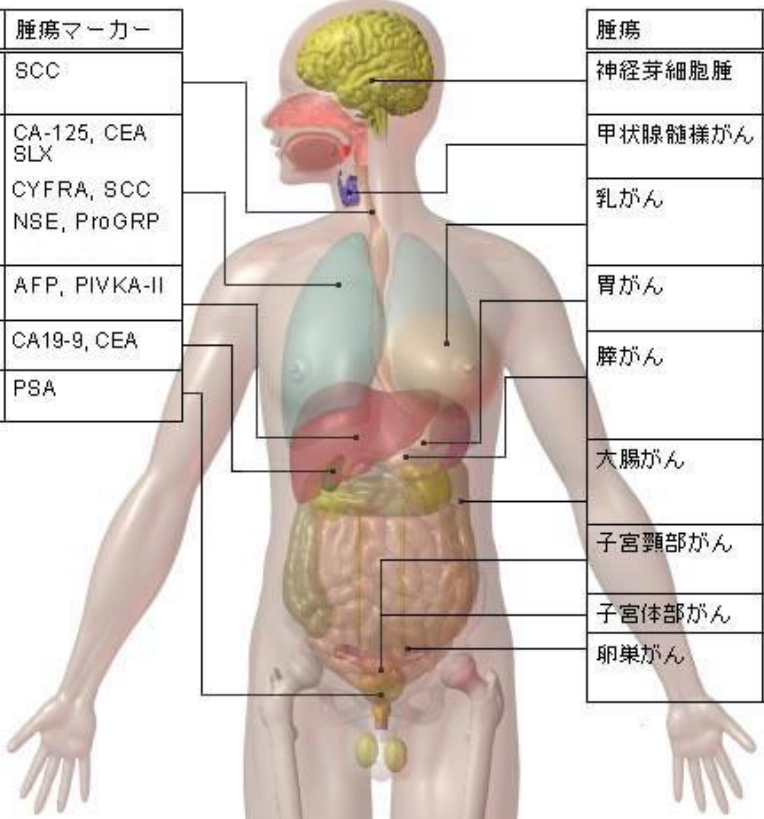
腫瘍の種類や発症部位に特有の物質と、そうでないものがあります。それを見出すのが腫瘍マーカー検査で、腫瘍の発生やその種類、進行度などを判断する手がかりになります。

腫瘍マーカーの種類

現在、数多くの腫瘍マーカーがあります。

臨床の場で活用されている腫瘍マーカーを下記に示します。

腫瘍	腫瘍マーカー	腫瘍	腫瘍マーカー
食道がん	SCC	神経芽細胞腫	NSE
肺がん	CA-125, CEA, SLX	甲状腺髄様がん	NSE
扁平上皮がん 小細胞がん	CYFRA, SCC NSE, ProGRP	乳がん	CA-125, CA15-3 CEA NCC-ST-439
肝細胞がん	AFP, PIVKA-II	胃がん	CEA, STN
胆道がん	CA19-9, CEA	膵がん	CA-125, CA19-9 CEA, Elastase I NCC-ST-439 SLX, STN
前立腺がん	PSA	大腸がん	CEA NCC-ST-439 STN
		子宮頸部がん	β HCG, SCC STN
		子宮体部がん	β HCG, SCC
		卵巣がん	β HCG, CA125 STN, SLX



腫瘍マーカーの役割について



腫瘍マーカー検査の多くは血液検査から簡便に行えます。そのため、この結果をもとに、必要に応じて診断を確定するための検査を行うきっかけとするのに有効な検査です。

しかし、腫瘍マーカーの数値が高いからといって、腫瘍が確実に存在するわけではありません。また、それだけで腫瘍が良性か悪性かの判断はできず、どの臓器に腫瘍ができたかも判断することはできません。そのため、腫瘍マーカー検査は各種検査の補助手段として利用されたり、治療効果の判定に用いられるのが一般的です。

腫瘍マーカーが異常値を示したら・・・

腫瘍マーカーの基準値は、多くの人の測定値をもとに決められています。そのため、中にはがんが存在していなくても腫瘍マーカーが上昇している人や、がんが存在していても腫瘍マーカーが上昇しない人がいるように、正確にがんの動きを反映しているわけではありません。

そのため、健診等で腫瘍マーカーが基準値を超えていたからといって、必ずしもがんが存在しているとは限らないのです。腫瘍マーカーで「要精密検査」という結果が返ってきたら、まずは病院に受診し、精密検査を受けましょう。そこで、血液検査やレントゲン、CT、超音波検査などの検査を行い、診断がつきます。



当院健診課で検査している腫瘍マーカー

男性 CA19-9、CEA、CYFRA (シフラ)、AFP、PSA

女性 CA19-9、CEA、CYFRA (シフラ)、AFP、CA125

各5項目が当院健診オプションで可能な腫瘍マーカーの検査です。

CA19-9、CEAの2項目 ¥3000 (税込¥3240)

男性セット (5項目) 女性セット (5項目) 各¥7000 (税込¥7560)

上記以外の項目をご希望の場合は、健診課までご相談ください。



CA19-9	
基準値	37U/ml 以下
主な疾患	<p>消化器がんの中でも、とくにすい臓がんの特異性が高い腫瘍マーカーです。胆道がん、胃がん、大腸がん、肝臓がん、肺がん、乳がん、卵巣がんなどでも高値を示します。</p> <p>糖尿病、慢性肝炎、胆石症、胆のう炎、慢性膵炎、子宮筋腫、良性卵巣腫瘍などでも陽性となることがあります。</p>

CEA	
基準値	5.0ng/ml 以下
主な疾患	<p>胃がんや大腸がんの腫瘍マーカーとして知られている。</p> <p>CEAは胎児の消化器細胞だけにあるタンパクの一種ですが、がん細胞が増殖している組織内からも作り出されます。消化器系がんのスクリーニング検査として広く用いられ、また、がん治療後の経過観察、再発や転移の早期発見にも重要になるため、2~3か月に1回、測定します。</p> <p>健康な人でも約3%の人は基準値を超える場合があるとされており、高齢や喫煙でも上昇する傾向があります。</p>
注意点	<p>消化器系がん以外のがんでも広く陽性を示す反面、臓器特異性は低いので、この検査だけでは診断できません。また、陽性になるのは進行がんが多く、早期がんの診断には適しません。</p>

CYFRA (シフラ)	
基準値	3.5ng/ml 以下
主な疾患	<p>肺がんのうち扁平上皮がん、腺がん、大細胞がんなどの非小細胞がんでは陽性率が高く、病気の診断、経過や治療成績の判定に役立ちます。卵巣がん、乳がんでも陽性を示します。</p>

AFP	
基準値	10ng/ml 以下
主な疾患	<p>肝臓がんの検査に用いられます。</p> <p>胃がん・すい臓がん・大腸がんなどでも高値を示します。</p> <p>AFPが基準値以上を示したら第一に肝臓がんを疑い、肝臓がんが陽性を示す他の腫瘍マーカーを測定したり、腹部超音波検査や腹部CT検査を行って確定診断をします。</p> <p>肝臓がんの多くは肝硬変から移行することが多いため、肝硬変の経過観察において定期的にAFPをチェックすることがあります。</p>

PSA	
基準値	<p>4.0ng/ml 以下</p> <p>加齢とともに上昇するため、4.0~10.0 ng/ml がグレーゾーンとされています。</p>
主な疾患	<p>前立腺に特異的にみられる腫瘍マーカーで、異常値の場合、前立腺がん、前立腺肥大症が疑われます。また、前立腺組織が大きいほど、PSAも高値になります。まず、肛門から指を入れる直腸診で前立腺の状態を調べ、経直腸的超音波検査などを行い、がんが疑われたら、組織片を調べる前立腺生検で確定診断をつける必要があります。</p>

CA125	
基準値	35U/ml
主な疾患	<p>婦人科系疾患、特に卵巣がんの検査に用いられます。</p> <p>乳がん・すい臓がん・肺がん・大腸がんなどでも高値を示します。</p> <p>子宮内膜症、良性卵巣腫瘍、子宮筋腫、急性膵炎でも値が上昇します。</p> <p>がんの進行とともに陽性率・測定値ともに上昇するため、治療効果の判定や再発予測にも用いられます。妊娠初期や月経時・閉経前などに一過性の上昇がみられます。採血時には、こういった日を避けるよう注意してください。</p>